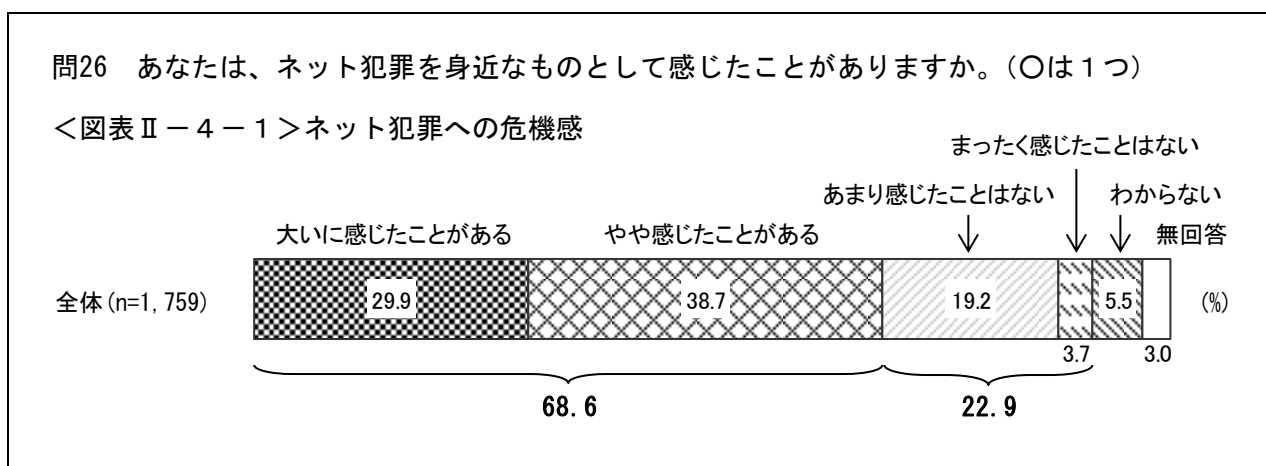


4 サイバー空間の安全対策について

（１）ネット犯罪への危機感

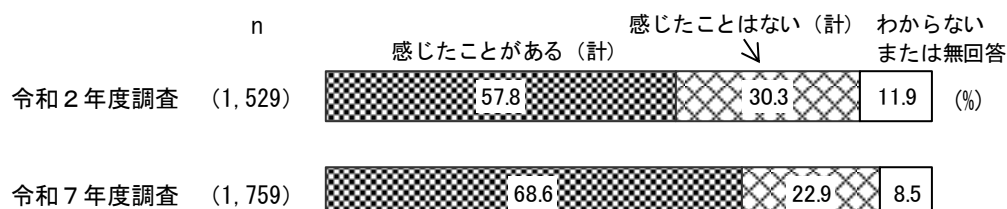
◇『感じたことがある（計）』が約 7 割



ネット犯罪への危機感について、「大いに感じたことがある」(29.9%)と「やや感じたことがある」(38.7%)を合わせた『感じたことがある（計）』(68.6%)が約 7 割となっている。

一方、「あまり感じたことはない」(19.2%)と「まったく感じたことはない」(3.7%)を合わせた『感じたことはない（計）』(22.9%)が 2 割を超えている。(図表Ⅱ－４－１)

〔参考〕令和 2 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



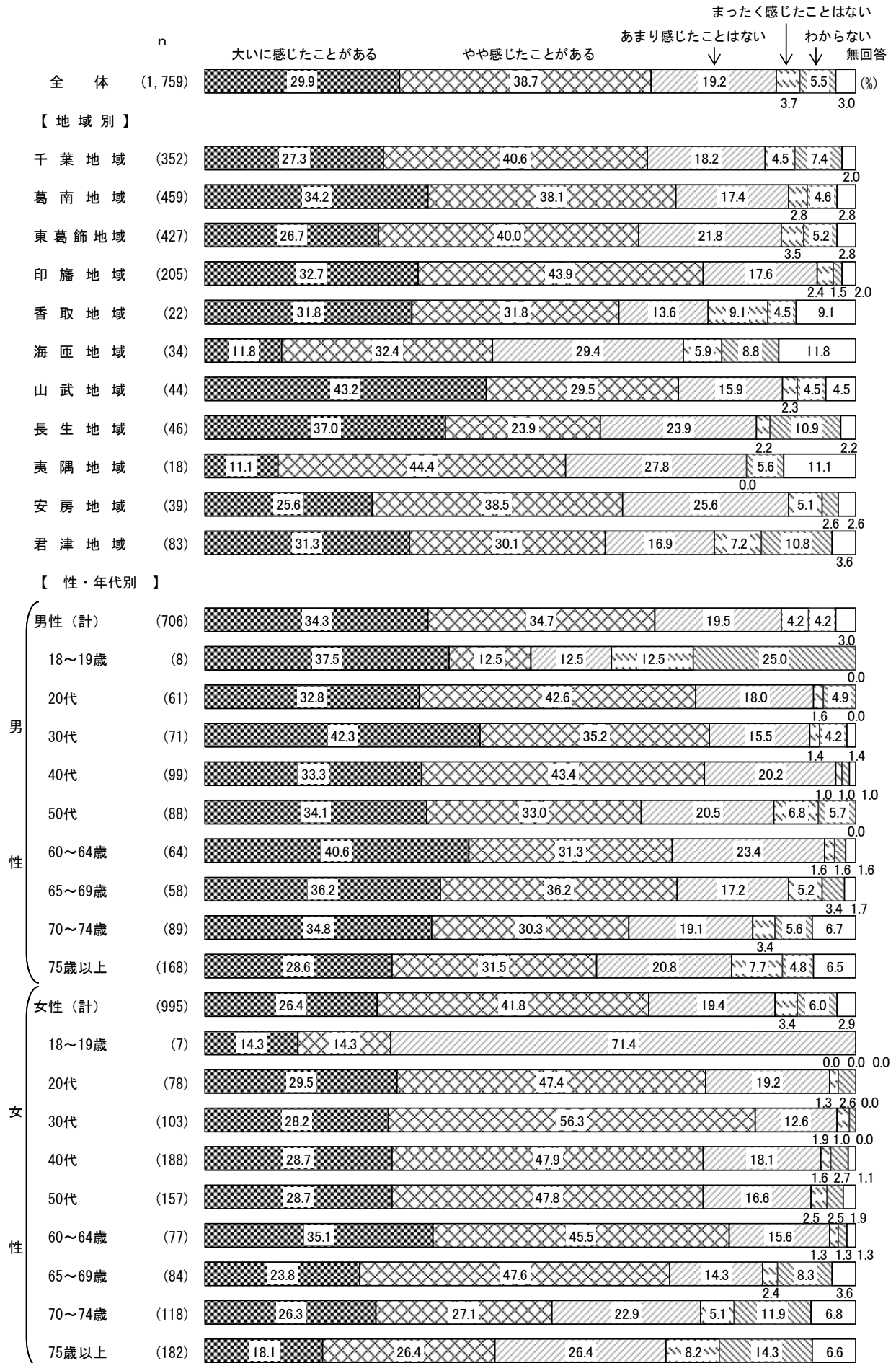
【地域別】

地域別にみると、『感じたことがある（計）』は“葛南地域”(72.3%)が 7 割を超えて高くなっている。(図表Ⅱ－４－２)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じたことがある（計）』は女性の 30 代 (84.5%) が 8 割台半ば、女性の 60～64 歳 (80.5%) が 8 割、女性の 40 代 (76.6%) と女性の 50 代 (76.4%) が 7 割台半ばで高くなっている。(図表Ⅱ－４－２)

＜図表Ⅱ－４－２＞ネット犯罪への危機感／地域別、性・年代別

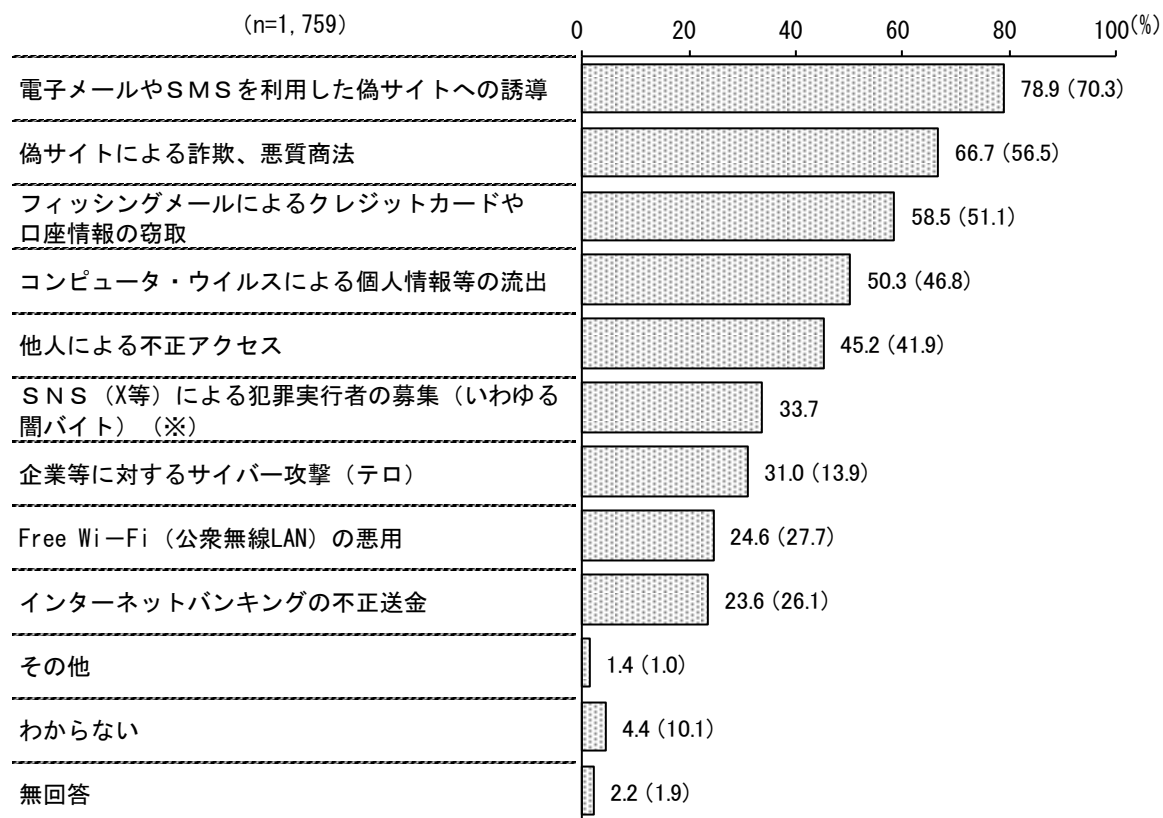


（２）危険性や不安を感じるネット犯罪

◇「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」が約８割

問27 あなたは、自身又は家族を含めて、どのようなネット犯罪に危険性や不安を感じますか。
（○はいくつでも）

＜図表Ⅱ－４－３＞危険性や不安を感じるネット犯罪



注) () の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

(※)「SNS (X等) による犯罪実行者の募集 (いわゆる闇バイト)」は今回調査から追加

危険性や不安を感じるネット犯罪について聞いたところ、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」(78.9%) が約８割で最も高く、以下、「偽サイトによる詐欺、悪質商法」(66.7%)、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」(58.5%)、「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」(50.3%)が続く。(図表Ⅱ－４－３)

【地域別】

地域別にみると、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」は“印旛地域”(85.9%)が8割台半ば、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」は“東葛飾地域”(63.5%)が6割台半ばで高くなっている。(図表Ⅱ－４－４)

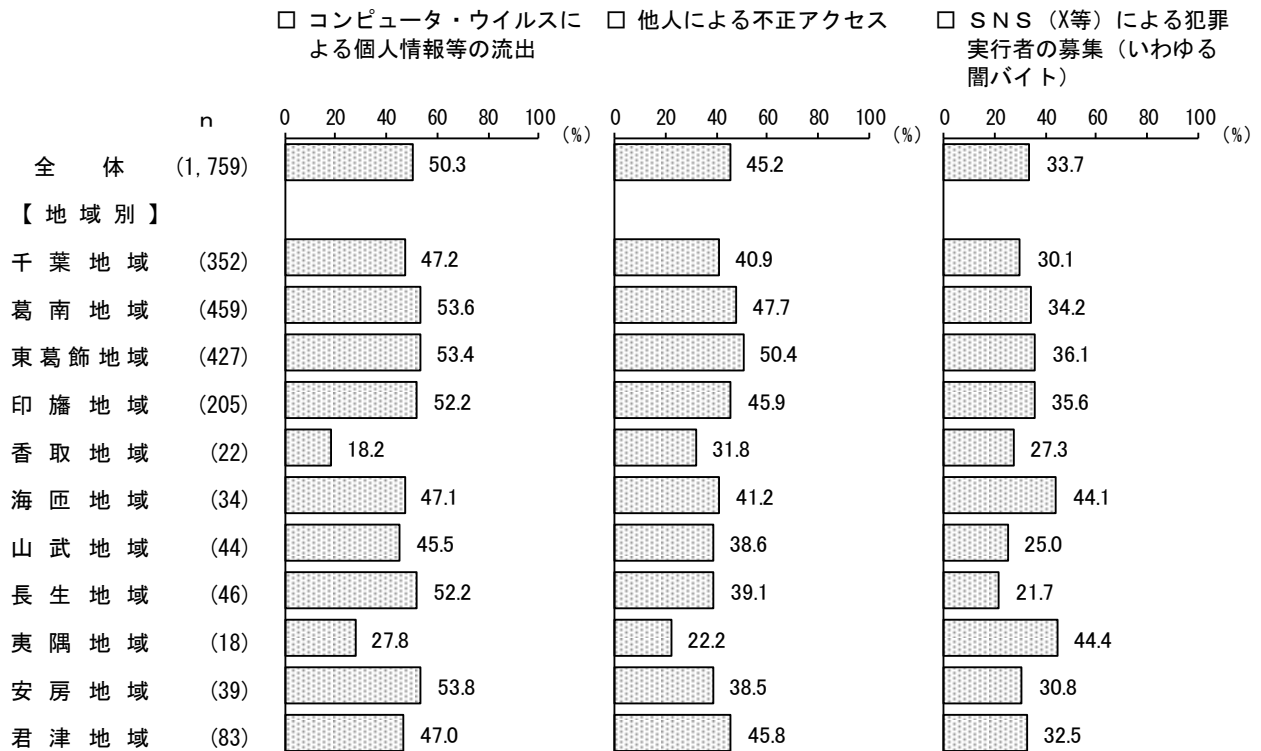
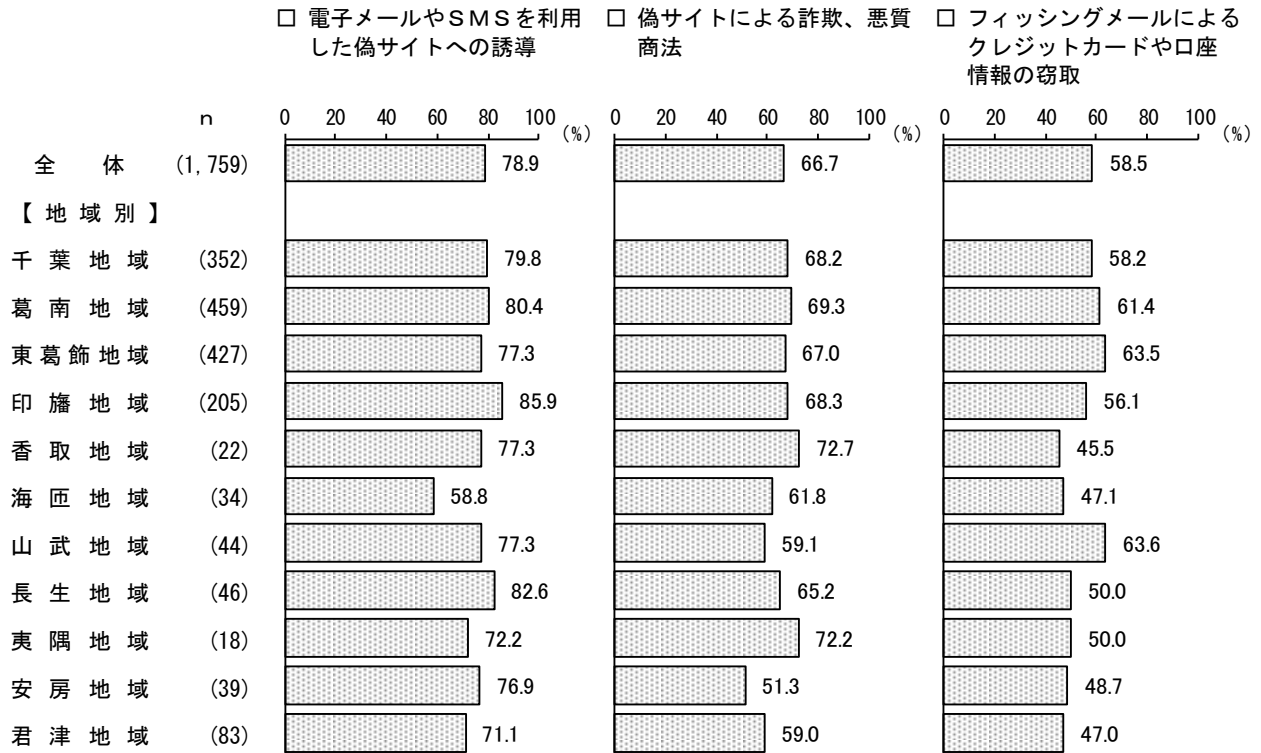
【性・年代別】

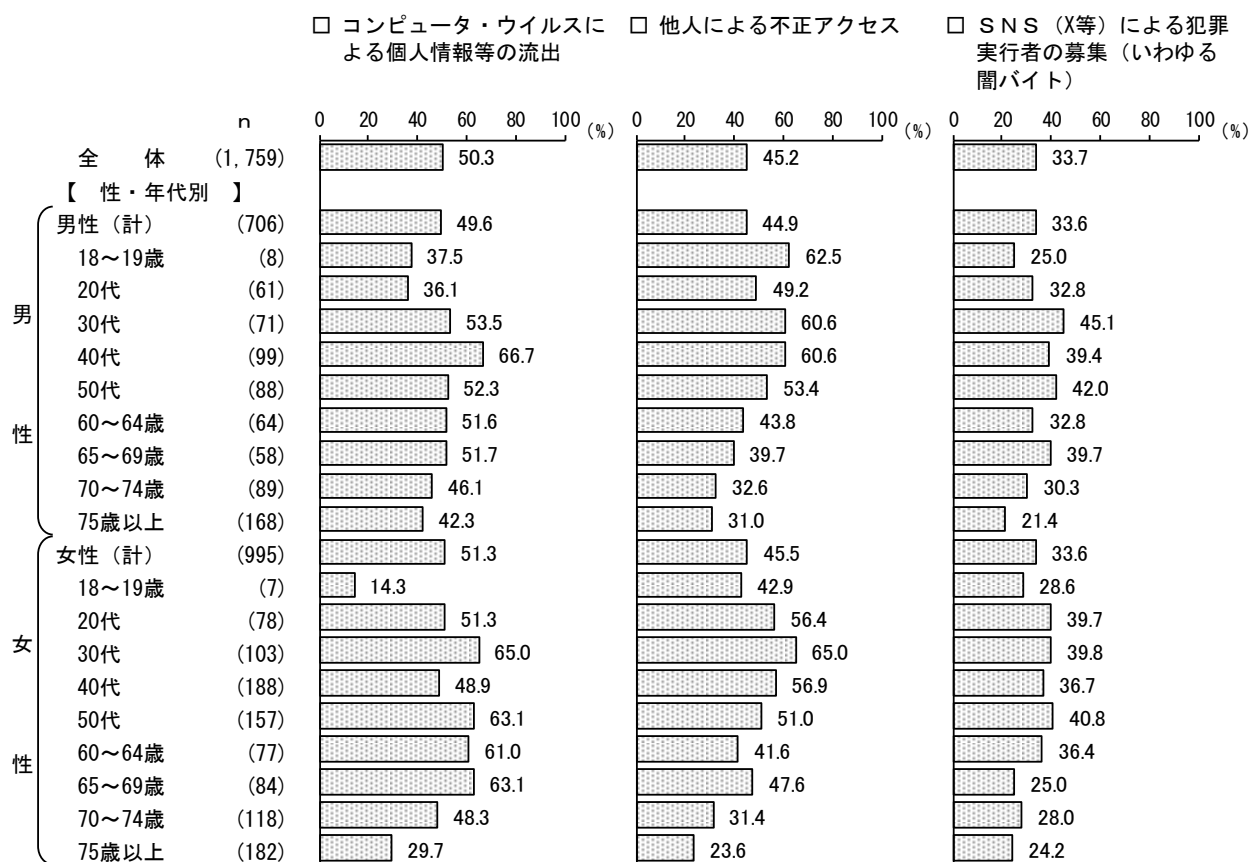
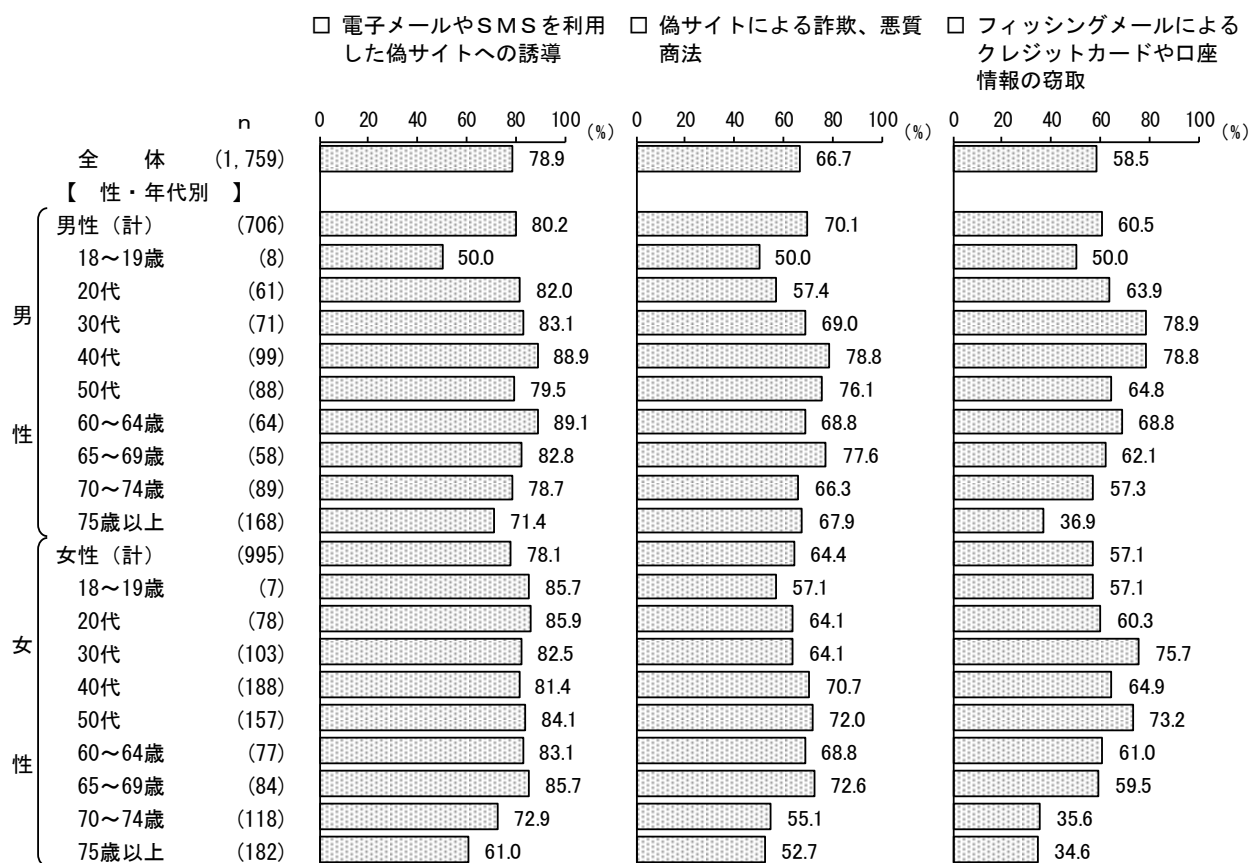
性・年代別にみると、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」は男性の60～64歳(89.1%)と男性の40代(88.9%)が約９割で高くなっている。

「偽サイトによる詐欺、悪質商法」は男性の40代(78.8%)が約８割で高くなっている。

「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」は男性の30代（78.9%）と男性の40代（78.8%）が約8割、女性の30代（75.7%）が7割台半ば、女性の50代（73.2%）が7割を超えて高くなっている。（図表Ⅱ－4－4）

<図表Ⅱ－4－4>危険性や不安を感じるネット犯罪／地域別、性・年代別（上位6項目）





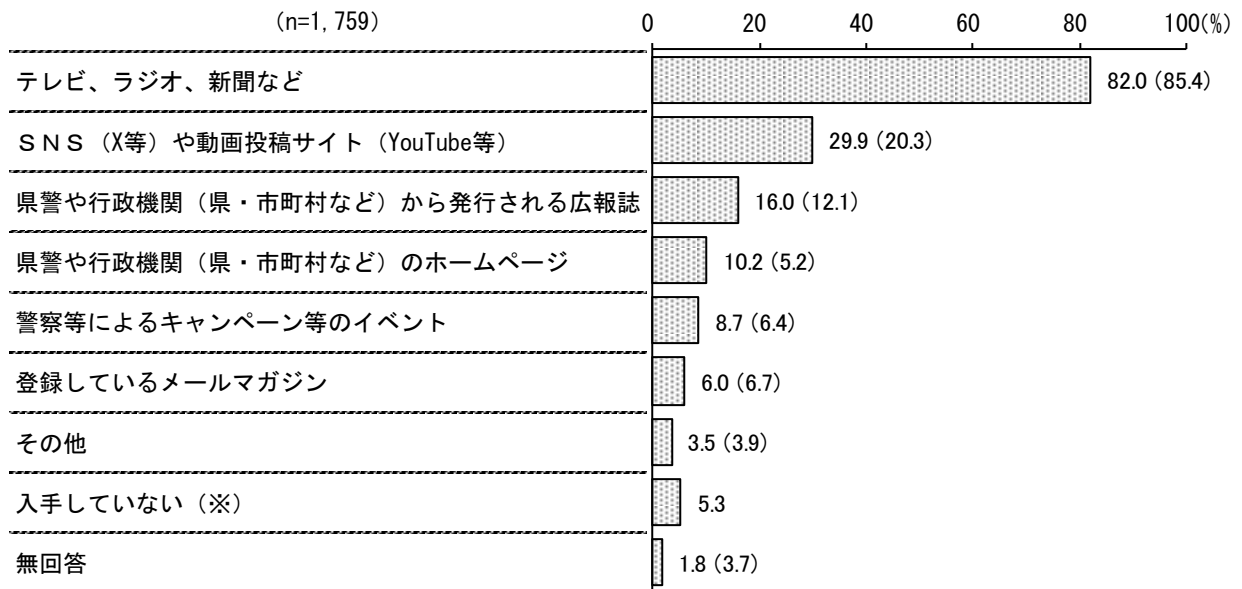
（３）ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法

◇「テレビ、ラジオ、新聞など」が８割を超える

問28 あなたは、ネット犯罪に関する防犯情報等をどのように入手していますか。

（○はいくつでも）

＜図表Ⅱ－４－５＞ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法



注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

（※）「入手していない」は今回調査から追加

ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法を聞いたところ、「テレビ、ラジオ、新聞など」（82.0％）が８割を超えて最も高く、以下、「SNS（X等）や動画投稿サイト（YouTube等）」（29.9％）、「県警や行政機関（県・市町村など）から発行される広報誌」（16.0％）、「県警や行政機関（県・市町村など）のホームページ」（10.2％）が続く。（図表Ⅱ－４－５）

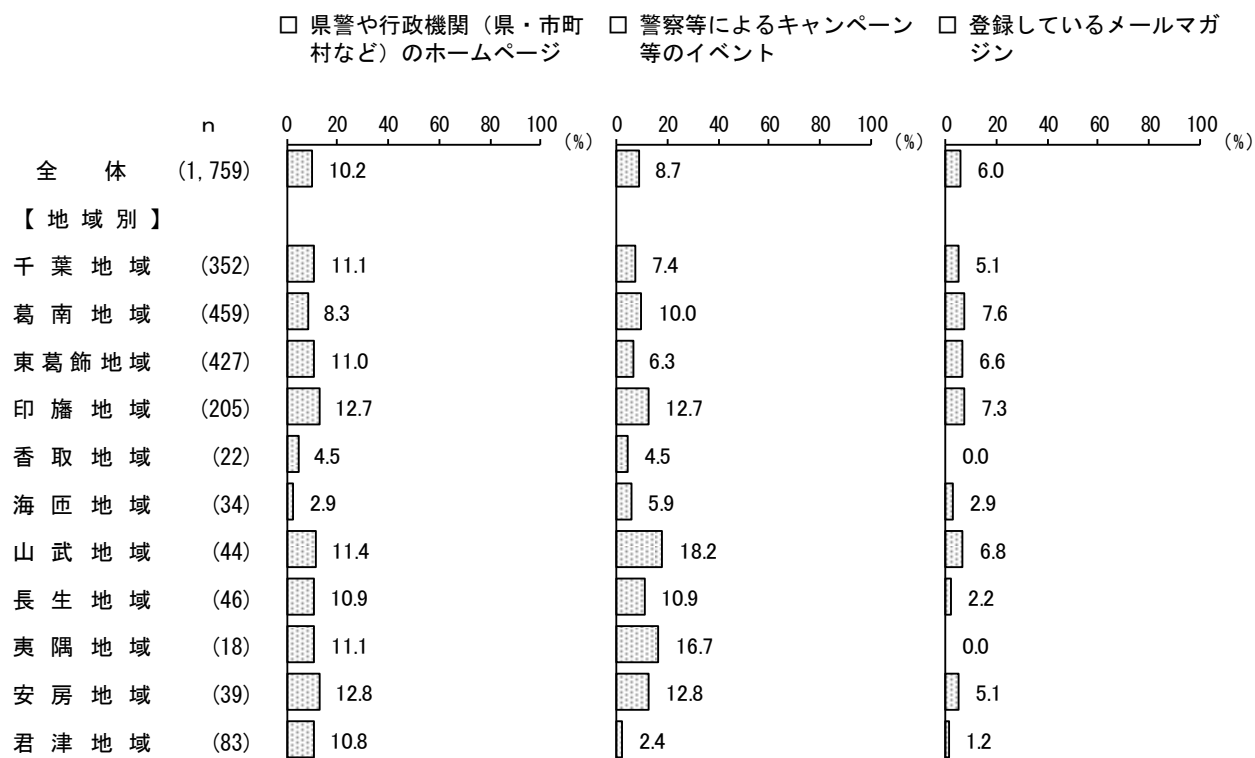
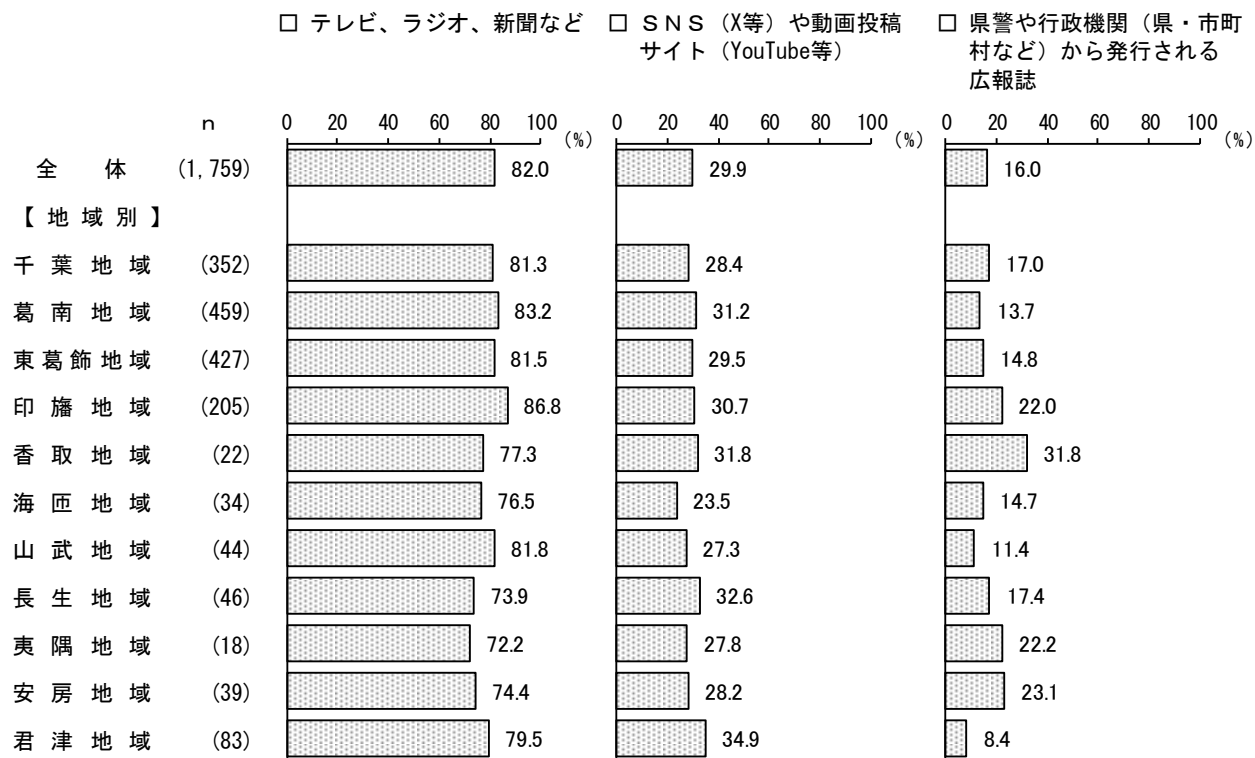
【地域別】

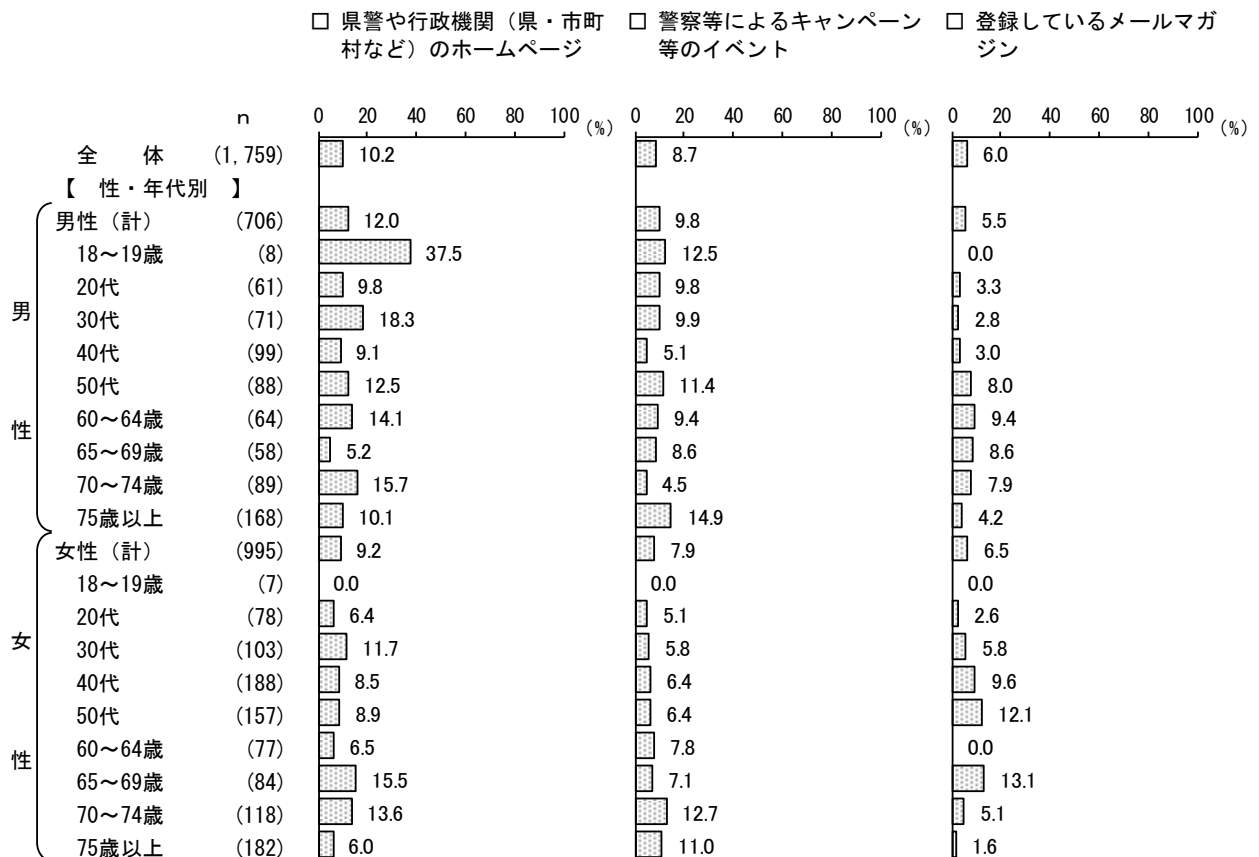
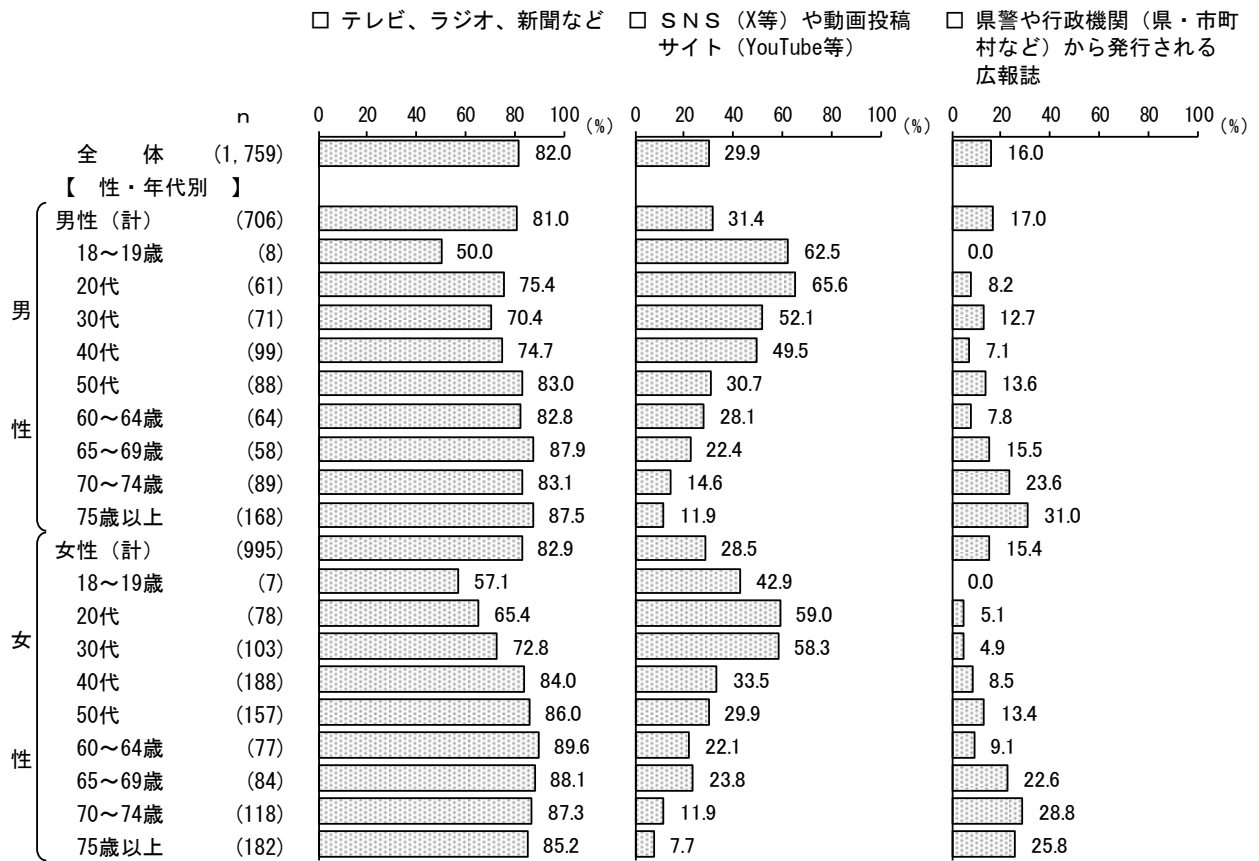
地域別にみると、「県警や行政機関（県・市町村など）から発行される広報誌」は“印旛地域”（22.0％）が２割を超えている。（図表Ⅱ－４－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「SNS（X等）や動画投稿サイト（YouTube等）」は男性の20代（65.6％）が６割台半ば、女性の20代（59.0％）と女性の30代（58.3％）が約６割、男性の30代（52.1％）が５割を超え、男性の40代（49.5％）が約５割で高くなっている。（図表Ⅱ－４－６）

＜図表Ⅱ－４－６＞ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法／地域別、性・年代別（上位6項目）



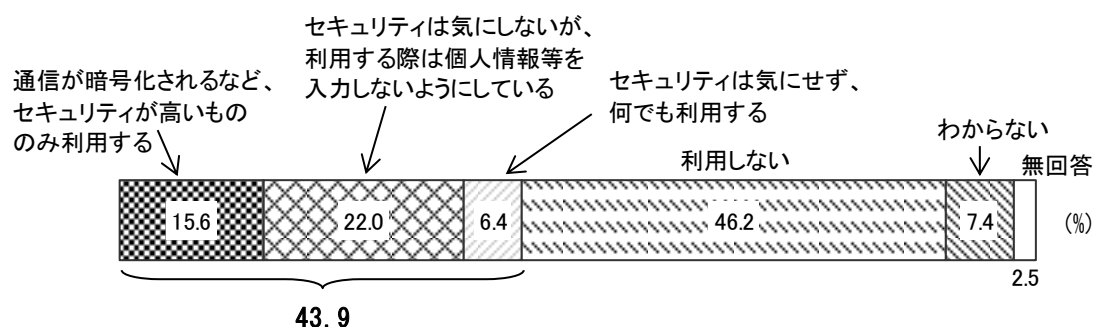


（４）Free Wi-Fi（公衆無線 LAN）の利用状況

◇『利用する（計）』が４割台半ば

問29 あなたは、飲食店、ホテル、空港などの街中に設置されているFree Wi-Fi（公衆無線LAN）を利用しますか。（○は１つ）

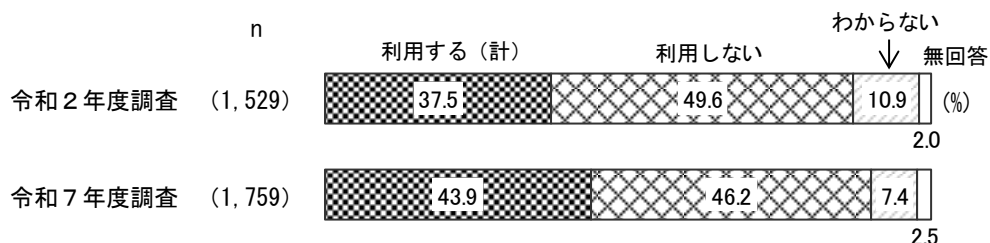
<図表Ⅱ－４－７>Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況



Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況について聞いたところ、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」（15.6%）と「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」（22.0%）、「セキュリティは気にせず、何でも利用する」（6.4%）を合わせた『利用する（計）』（43.9%）が４割台半ばとなっている。

一方、「利用しない」（46.2%）は４割台半ばとなっている。（図表Ⅱ－４－７）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表Ⅱ－４－８）

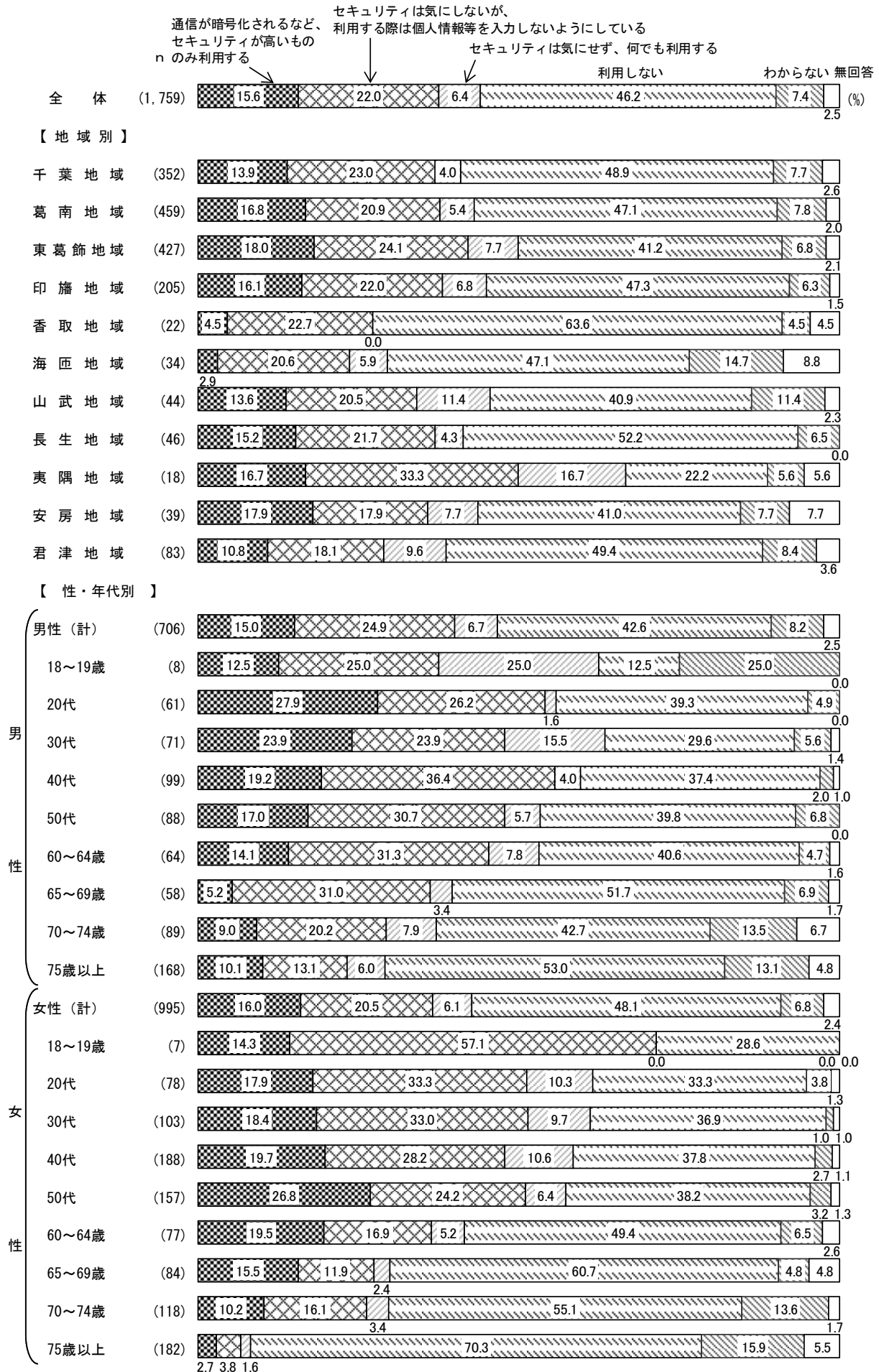
【性・年代別】

性・年代別にみると、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」は男性の20代（27.9%）が約３割、女性の50代（26.8%）と男性の30代（23.9%）が３割台半ばで高くなっている。

「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」は男性の40代（36.4%）が３割台半ば、女性の20代（33.3%）と女性の30代（33.0%）が３割を超え、男性の50代（30.7%）が３割、女性の40代（28.2%）が約３割で高くなっている。

一方、「利用しない」は女性の75歳以上（70.3%）が７割、女性の65～69歳（60.7%）が６割、女性の70～74歳（55.1%）が５割台半ばで高くなっている。（図表Ⅱ－４－８）

<図表Ⅱ－４－８>Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況／地域別、性・年代別



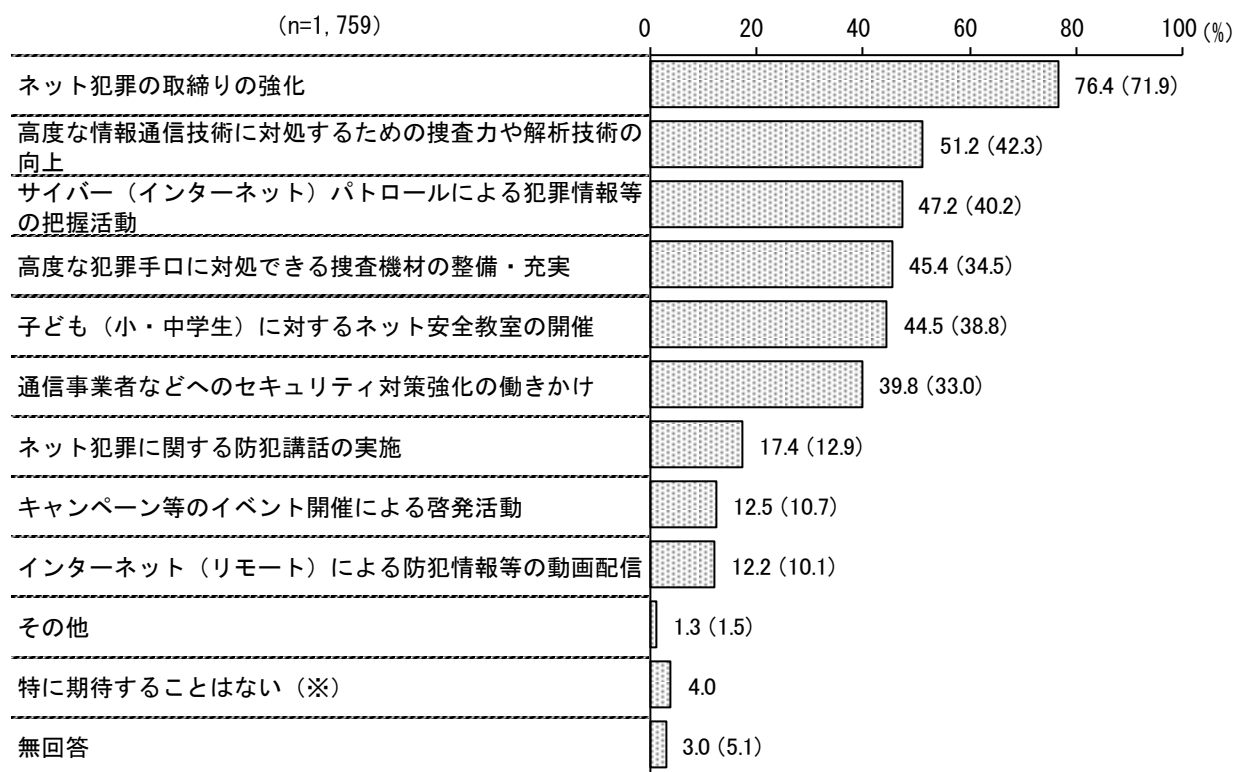
（５）インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動

◇「ネット犯罪の取締りの強化」が７割台半ば

問30 あなたは、インターネット空間の安全確保に向けてどのような警察活動を期待しますか。

（○はいくつでも）

<図表Ⅱ－４－９>インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動



注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

（※）「特に期待することはない」は今回調査から追加

インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動を聞いたところ、「ネット犯罪の取締りの強化」（76.4%）が7割台半ばで最も高く、以下、「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」（51.2%）、「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」（47.2%）、「高度な犯罪手口に対処できる捜査機材の整備・充実」（45.4%）が続く。

（図表Ⅱ－４－９）

【地域別】

地域別にみると、「ネット犯罪の取締りの強化」は“印旛地域”（85.4%）が8割台半ばで高くなっている。（図表Ⅱ－４－10）

【性・年代別】

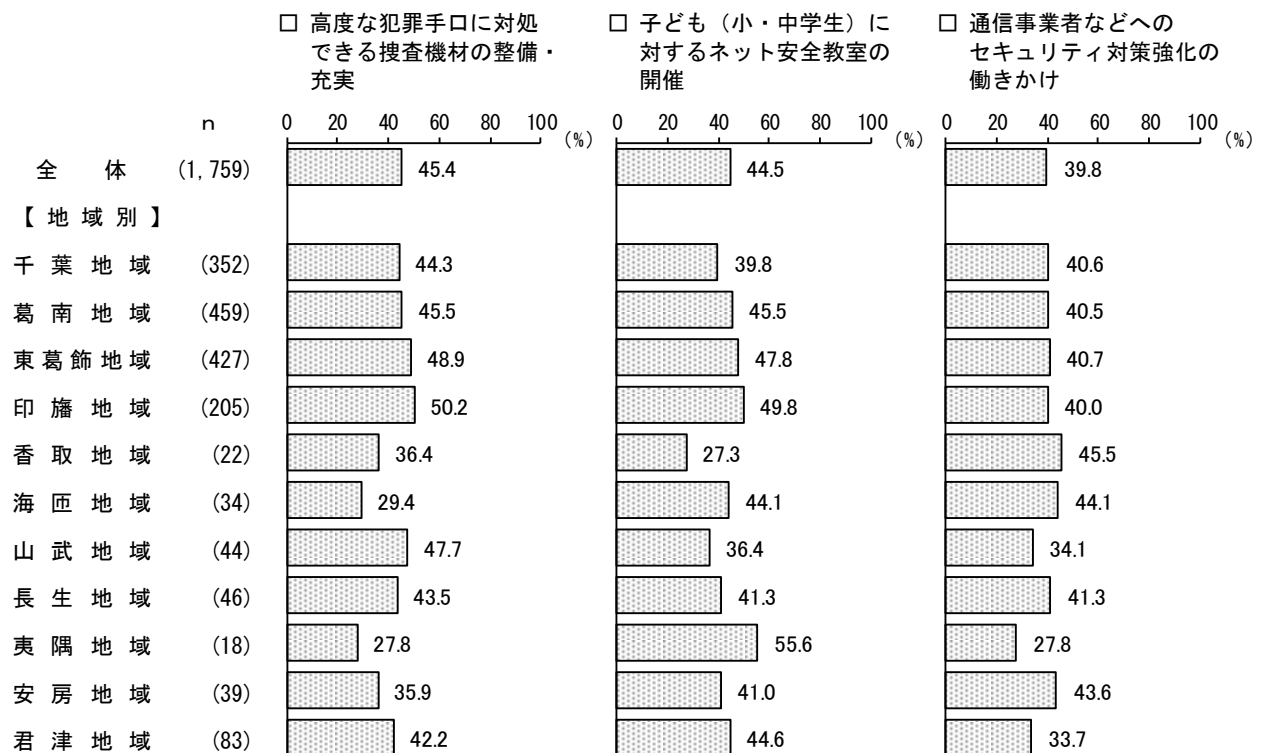
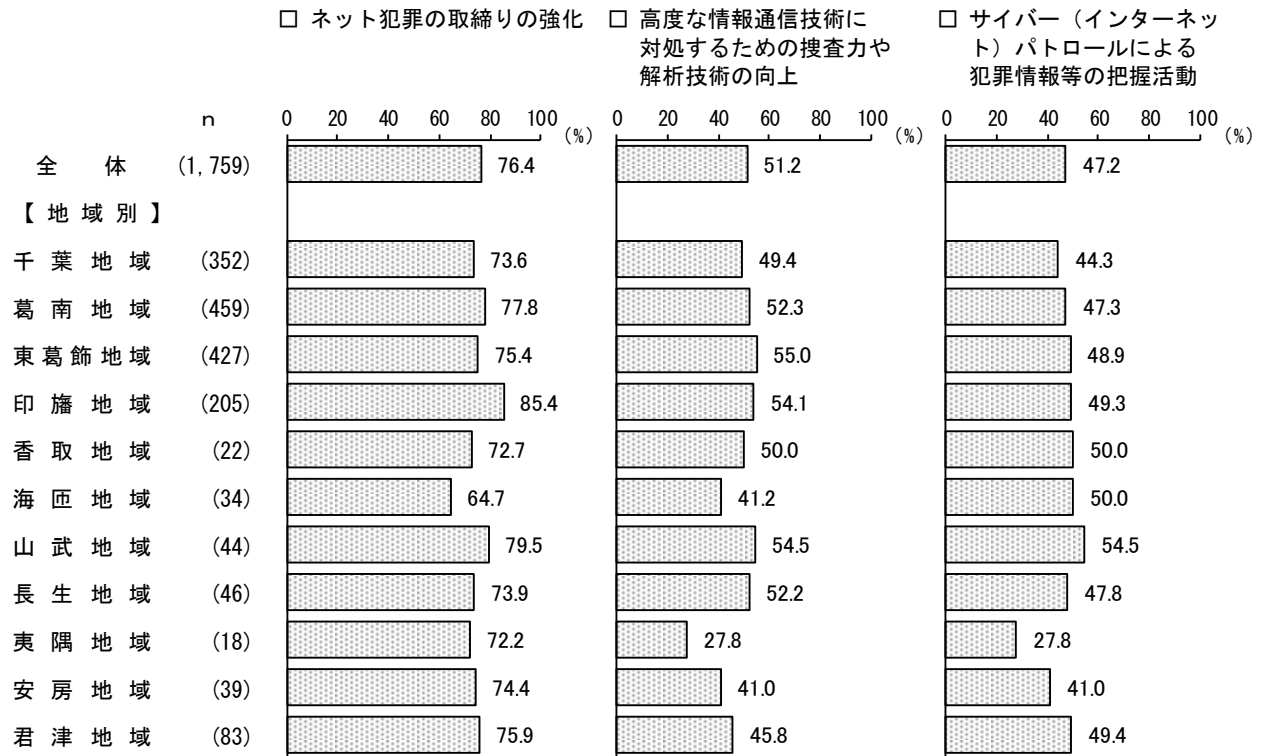
性・年代別にみると、「ネット犯罪の取締りの強化」は女性の60～64歳（85.7%）と女性の50代（84.7%）が8割台半ばで高くなっている。

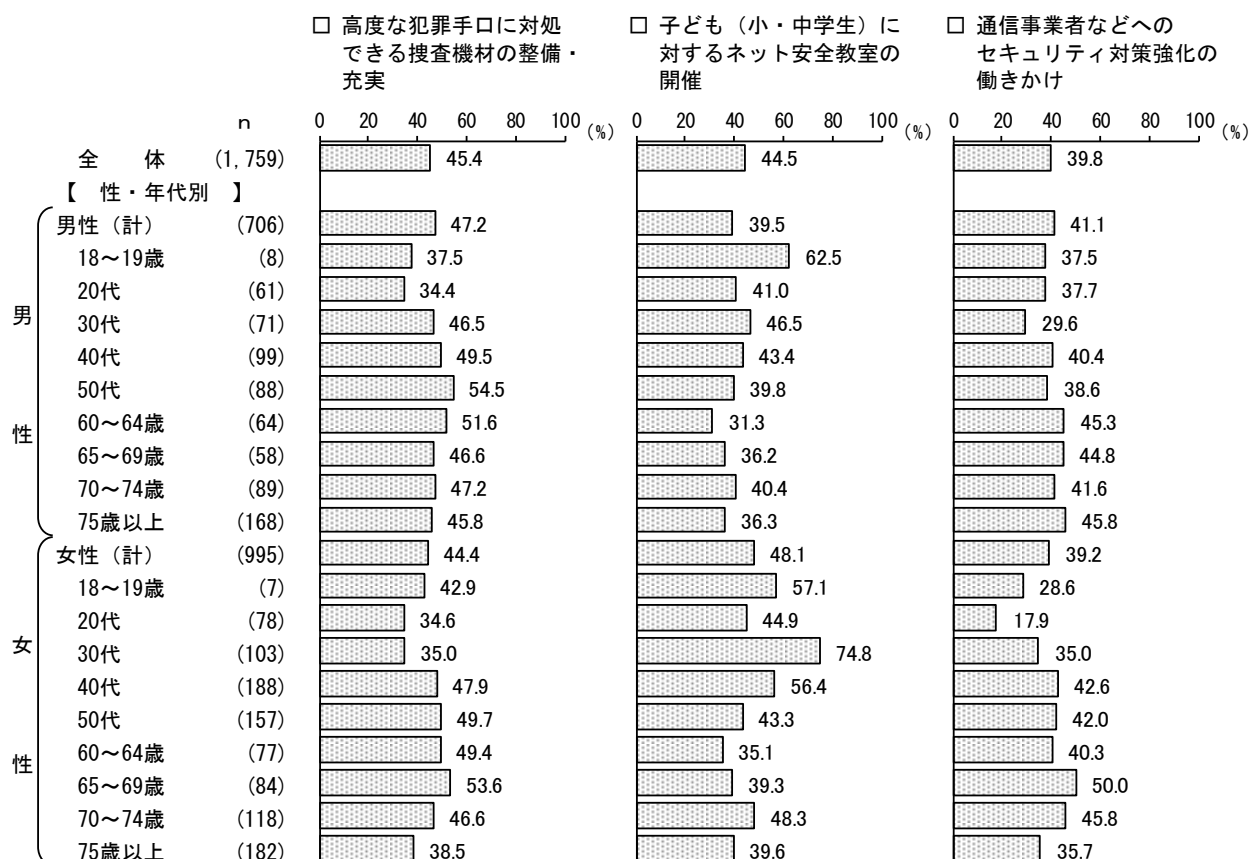
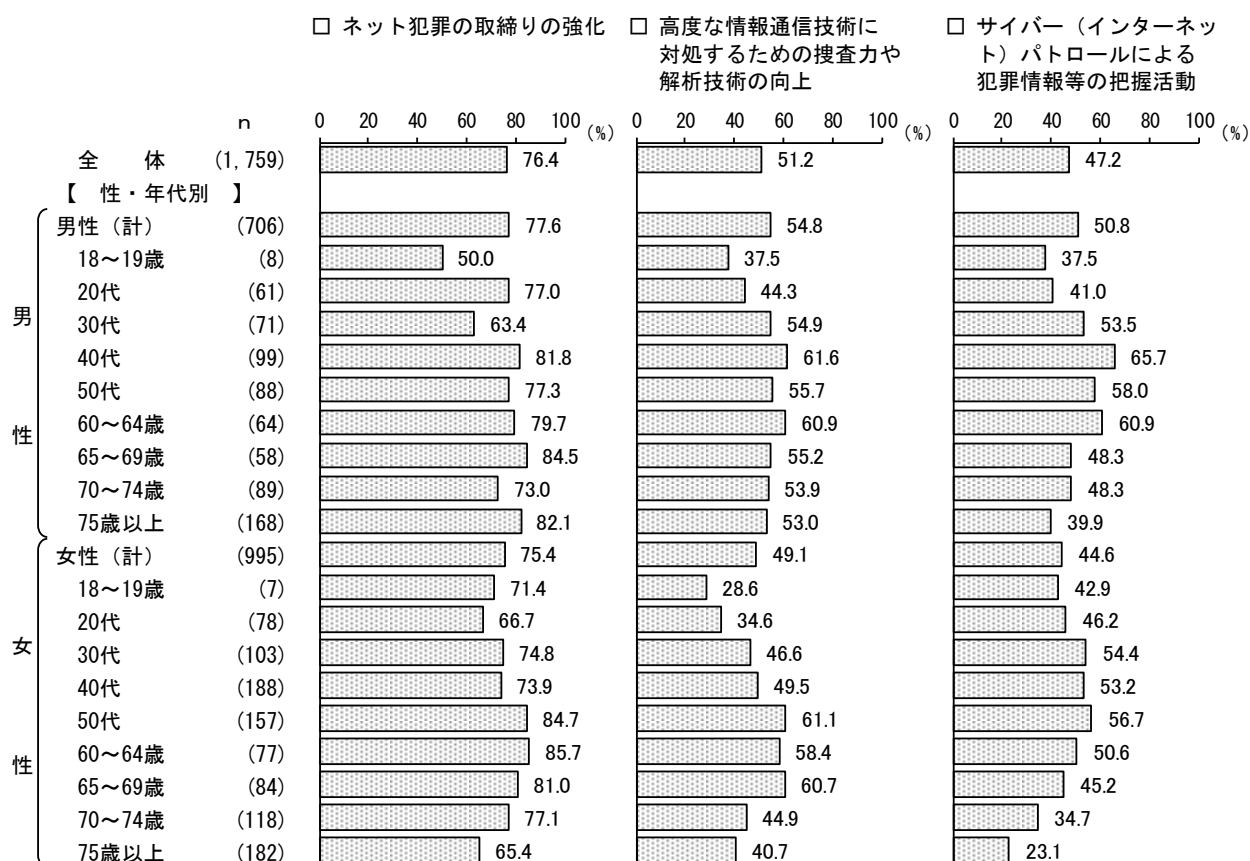
「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」は男性の40代（61.6%）と女性の50代（61.1%）が6割を超えて高くなっている。

「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」は男性の40代（65.7%）が6割台半ば、男性の60～64歳（60.9%）が6割、男性の50代（58.0%）が約6割、女性の50代（56.7%）が5割台半ばで高くなっている。（図表Ⅱ－4－10）

＜図表Ⅱ－4－10＞インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動／

地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかに、「サイバー空間の安全対策について」や問26～問30について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、102人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「サイバー空間の安全対策について」の自由回答（抜粋）

- ネットは匿名空間のためとんでもない誹謗中傷を目にすることがある、これについて積極的に取り締まりを行ってほしい。性的な広告など児童や子供に有害であるものをネット事業者と協力するなどして取り締まってほしい。詐欺メールや偽サイトなどが野放しになっている、こちらでも規制を強化してほしい。（女性、40代、葛南地域）
- インターネットに関しては子供よりもシニア世代の親の方がネットリテラシーが低くヒヤッとさせられた事が多い。シニア向けに分かりやすい講座やパンフレットの配布などをして注意喚起をしてほしい。（女性、50代、東葛飾地域）
- インターネットは、できれば触りたくないのですが、よく分からないまま操作してしまい、ネット犯罪に関わることになるのが怖いです。これだけはやっちゃだめという情報がほしいです。（女性、75歳以上、安房地域）
- こんな最近の犯罪がありましたよ（具体的なこと）、と市のLINEで流す。市のHPに載せる。学校や企業へお知らせのメールをする。知らないと防げません。（女性、40代、千葉地域）
- Free Wi-Fiではパスワードを抜き取ることができるなど、どのような犯罪が可能であるかをユーザーに周知させる必要がある。（男性、30代、東葛飾地域）
- 市中のFree Wi-Fiは悪用（クレジット情報の詐取）の恐れがあり、また、ネット空間ではもっともらしいメールが届くなど、サイバー空間は決して安全でないと広報を徹底していただきたい。県の仕事ではないが、罰則の重罪化（罰金10億円以下とか）を安易に犯罪に手を染めないよう重くしてほしいです。（男性、65～69歳、葛南地域）
- 小学校の低学年のうちから本格的なネットリテラシーを授業の一環として取り入れることが大切だと思う。（男性、18～19歳、葛南地域）
- 大人の被害より子供の被害を防いでほしいので、実例を交えた講話や教室を学校等で実施してほしい。できれば希望者は保護者参加もしたい。自分が子供であった頃にはなかった犯罪なので、子供へ注意することに欠如があったら…と不安である。交通安全教室のように、親が分かっていることではないので、親子で、家族で、意識をしていきたい。その機会をいただけるとありがたいです。（女性、40代、千葉地域）
- 未成年の使用について保護者任せではなく、行政機関で制限を検討すべき。特に22時以降の利用を停止するだけで、かなり健全になると思われる。（男性、30代、千葉地域）
- 通信企業が責任持って対処するようにならないと、個人のセキュリティでは限界がある。（男性、60～64歳、千葉地域）